

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 8年 3月 25日

事業所名：福岡市立西部療育センター

保護者等数（児童数） 110名

回収数 72名

割合 65.4%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 お子さんの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	68	3	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜参観の時、A、B全員が運動の部屋だったが人口密度が高すぎたと思う。それぞれ1階にA、4階にBとしたら良かったと思う。ひよことはとが共に食事をする機会が増えたが、はとさんは机も大きくスペースや食事の雰囲気も異なるのでできれば別々にしてほしい。 ・スペースはせまいが工夫して子ども達が過ごしやすいようにしてくれていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜参観の運動の部屋のアイデアありがとうございます。食事に関しましては、充分に対応できず大変申し訳ありません。給食を一緒に食べることで様々な大人や友だちと関わることで刺激になり行動を変えることを狙って合同にしています。ねらいをきちんとお伝えするように対応したいと思います。 ・1日70名近いお友だちと20名近い職員（大人）が同じフロアで過ごしていますので、どうしても一人あたりのスペースが狭くなってしまいます。引き続きお子さんにとって過ごしやすい環境設定に努めたいと思います。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか	68	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの人数が増えて先生が3人になったが、仕方ないことだが先生方も忙しくなり以前よりも子どもがかまってもらえる時間が少し減り時々寂しいなと感じることがあった。不満には思っていない。 ・看護師、PT、保育士それぞれの配置数は適切なのだと思う。給食の時間などに入れ替わりで声掛け頂くのが食事に集中できなくなってしまうことがある。気にかけて頂き関わってもらえるのはありがたいが大体1時間の給食中に5～6人の職員と挨拶している印象なのでSTと担任から見ただけで十分かなと思う。子どもが食事を話をしながらでも食べられるくらい集中力がついたら問題なくなると思うが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寂しい想いをさせてしまい大変申し訳ありません。お便り帳やコドモン等を使ってやり取りをすることも可能です。相談や話したいことがある時は、個別面談を実施することもできますので、お声掛けください。 ・お子さんや保護者の方が落ち着いて食事ができるように環境設定や職員の声のかけ方等関わり方にも配慮していきます。
	3-1 生活空間は、お子さんにわかりやすく「構造化された環境」【注 i】になっていると思いますか。	67	2	0	2		
	3-2 障がいの特性に応じて、事業所の設備等は、バリアフリー化やわかりやすい情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	67	2	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子用駐車スペースがもう少し増えると嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。駐車可能台数を確保する為、ご希望に添えず大変申し訳ありません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、お子さん達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	64	7	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・大人用も子ども用もトイレがあまりきれいじゃないと思う。 ・1F奥のトイレが落ち着いて排泄が出来る環境ではない気がした。 ・掃除が行き届いておりきれい。 ・トイレの便座の部分や床など汚れてはいないが、古いでカバー等をしてもらえると嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の変更は難しい為、掃除等を徹底し、清潔に保ち、お子さんが安心して、落ち着ける環境設定を検討していきたいと思います。 ・適切な温度設定を心掛けていきます。

適切な支援の提供	5	契約時に、運営規程、「年間カリキュラム」【注ii】、利用者負担額等について丁寧な説明がありましたか。	61	10	0	1	・初めて利用させてもらうことで色々な不安やドキドキしている心境での説明でイマイチ分からない点もあった。	・緊張をさせてしまい申し訳ありません。職員の配置を検討したり少しでも保護者の方の緊張を和らげられるように努めたいと思います。通園をする中で疑問や不安に思う事も出てくると思います。いつでも担任にお尋ねください。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか	68	1	0	3		
	7	お子さんのことを十分理解し、お子さんと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、「児童発達支援計画」【注iii】（年間・半期の目標、まとめ等）が作成されていると思いますか。	69	1	1	1	息子の特性をしっかりと理解され気持ちに寄り添った支援計画を作成して下さるので安心できる。目標設定もステップで親子共に無理なく取り組むことが出来る。困りごとへの対策・対応も提案して頂き家庭保育中もとても助けて頂いている。	・ありがとうございます。今後ご家庭と連携を取りながら支援をすすめさせていただきますと思います。
	8	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」【注iv】に示された支援内容からお子さんの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	67	2	0	3		
	9	「児童発達支援計画」（年間・半期の目標、まとめ等）に沿った支援が行われていると思いますか。	70	2	0	0		
	10	園の「活動プログラム」【注v】が固定化しないよう工夫されていると思いますか。	62	6	2	2		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のお子さんと活動する機会がありますか。	55	4	5	4	・健常児を見たり関わりを持つたりすると悲しくなるので行きたくない。関わりたいては人を見たことがない。	・嫌な思いをさせてしまい大変申し訳ありません。保育所等との交流はのびのび園、保育所どちらとしましてもインクルーシブ、すべての人が認め合って生きていく社会を目指す中で貴重な場となっております。保護者の皆様の思いを尊重しながら無理のない範囲で保育所等交流の場を設定していきたいと思っております。
	12	契約時に、運営規程、「年間カリキュラム」【注ii】、利用者負担額等について丁寧な説明がありましたか。	70	1	0	1		
	13	「児童発達支援計画」（年間・半期の目標、まとめ等）を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	72	0	0	0		
	14	園では、家族に対して家族支援プログラム（「ペアレント・トレーニング」【注vi】等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	62	2	1	2	・聞いたことに対しては情報を頂けるが活用できる制度等、園からの情報提供がもっとあるとありがたい。 ・家庭支援プログラムとは少し違うが、家庭訪問に来て下さったのがとてもありがたかった。 ・上半期に集中して受けられなかったのが残念だった。年間通してまんべんなく開催して頂けたらありがたい。	・ご家庭によって活用できる制度等違いがありますのでご家庭に合った制度等の提案を担任が実施できるよう努めて参ります。 ・ご家庭での様子を実際に見せて頂いて、お話をさせていただくことで、ご家庭と共通理解に繋がり、通園内の支援の充実が図れます。短縮保育等家庭訪問へのご協力ありがとうございます。 ・ご意見ありがとうございます。親子通園が随時入園可能となっている為、年間を通して計画を立てることの難しさがあります。個別に分離の時間や通園後等の時間を利用して対応いたしますので、個別にお声掛けください。

保護者への説明等

15	日頃からお子さんの状況を保護者と伝え合い、お子さんの健康や発達状況、課題について共通理解ができていますか。	66	6	0	0	・親と同じくらいに子どもの事を理解して下さい、とても感謝している。	・ありがとうございます。引き続きお子さん、保護者の方が安心して支援を受けていただけるよう努めてまいります。
16	定期的に、保護者に対して面談や、子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	68	4	0	0		
17	園の職員から、共感的に支援をされていると思いますか。	68	3	0	1		
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がなされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がなされていますか。	54	10	1	7	・他クラスの保護者と勉強会、保護者会以外での交流はない。何か勉強会以外で話ができる機会があると嬉しい。 ・きょうだい児の交流が少ない気がする。きょうだい児の相談などの機会がほしい。 ・仕事をしている為、親の会の活動や保護者会への参加が難しく負担に感じることがある。	・通園希望者が多く定員を大幅に超えた受け入れを実施している為、園全体での行事の実施等を今年度は、安全面やスペースの面からもクラス単位で実施とさせていただきます。今後は行事の実施方法等を検討させていただきたいと思います。現状としましては、クラス懇談会や保護者会等を他のクラスの保護者と交流する機会としていただければと思います。 ・夏休み期間を利用して知的単独はきょうだい児交流保育を、肢体不自由児単独はきょうだい児交流会を実施しております。回数を増やすこととなり通常の療育日を減らすことになり難しい現状があります。相談の機会につきましては、担任にお申し出ください。 ・お仕事をされている方やご家庭の事情等で負担に感じる方も多くいらっしゃる印象です。保護者会の活動について等皆様の負担のない範囲で参加していただけるよう、保護者会役員の方々と連携を図りたいと思います。
19	お子さんや家族からの相談や申入れについて、「対応の体制が整備」【注 vii】されているとともに、お子さんや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	69	2	0	1		
20	お子さんや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	67	4	0	1		
21	定期的に、通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果がお子さんや保護者に対して発信されていますか。	57	4	3	8		
22	個人情報の取扱いに十分留意されていると思いますか。	67	2	0	3	・先生方から他の保護者の職業や家庭環境を耳にすることがある。	・個人情報、プライバシーの保護については、全職員で再度確認をしていきます。ご不安な気持ちにさせてしまい大変申し訳ありません。
23	園では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	59	2	0	11		
24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	66	0	0	6	・定期的に避難訓練があると子どもから聞いている。	

非常時の対応	25	お子さんの安全を確保するための計画について周知される等、安全確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	64	2	0	6			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した場合、速やかな連絡や状況の詳しい説明がされていると思えますか。	62	0	1	9			
満足度	27	お子さんは通園（通所）を楽しみにしていますか。	59	7	3	0	3	<p>・通園バスでお迎えに来てくれた先生方を見たり療育センターのyoutube動画を見たりした際ニヤッと笑い「きつどのびのび園が大好きなんだろな」と感じる。大大満足</p> <p>・毎日の登園を楽しみにしており休日も行きたがっている。</p> <p>・先生と友だちのことがとても好きで毎日進んで通っている。</p> <p>・とても喜んで嬉しそうに通園している。</p> <p>・子ども自身は園生活が退屈だと言うことがある。子ども自身はやや保育に不満があるようだが親としては満足している。</p> <p>・通園バスに乗ることも楽しみにしているし先生に会えるのも楽しみにしていてよかった。</p>	・ありがとうございます。今後も楽しんで通園していただけるように努めて行きたいと思えます。
	28	お子さんは安心感をもって通所されていますか。	65	4	2	0	1	<p>・安心して通っている。子どもの第2の家ぐらいの安心感があるようだ。</p> <p>・青バスが来年壊れないといい。（代替バスは大人用で良かったが子どもは怖がっていた）運転手さんの名前も分かると子供は喜ぶかもしれない。</p>	<p>・青バスの故障等本当にご心配、ご迷惑をおかけいたしました。バスの運転手が外部委託となっておりますので、固定が難しい状況です。回数が多く運転してくださっている方に関してはお子さんが名前を把握していることもありますが、個人情報の観点からも「バスの運転手さん」という名称で運ばせていただいております。ご理解をいただければと思います。</p>
	29	(総合的にみて) 事業所の支援（サービシ）に満足されていますか。	64	8	0	0	0	<p>・安心して預けられる場所になっている。</p> <p>・去年の入園以来、親子ともにのびのび園の先生方の存在、その支援にとても助けられている。</p>	<p>/青バスだけでなく、施設も築20年を超えて老朽化、劣化が見られ、今年度は外壁工事や空調設備の入れ替え工事と皆様にはご迷惑をおかけしております。利用者の皆様が安心して西部療育センターをご利用いただけるよう、今後も努めていきたいと思えます。</p>

(注釈)

- i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、机や本棚の位置やついたでの使用などで刺激を整理し、お子さん本人がその場所で何をしたらいいかをわかりやすくする工夫です。
- ii 「年間カリキュラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。
- iii 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標とその達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載した計画のことです。これは、児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者が作成します。
- iv 「児童発達ガイドライン」は、児童発達支援の提供すべき支援として、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」を規定しています。
本人支援とは、子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるよう「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」の5つの領域での支援のことです。
家族支援とは、お子さんが安定して育ち、暮らしていくことを目的として、家族が安心して子育てを行うことができるよう、様々な家族の負担を軽減していくための物理的・心理的な支援を行うことです。
移行支援とは、あなたのお子さんが、お住いの周囲の一たちから理解され、家族として安心して地域参加するための支援のことです。
「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。お子さんの特性や発達の課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
- vi 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がお子さんの行動を観察してお子さんの特性を理解したり、特性を踏まえた褒め方等の関わりのコツを学ぶことにより、お子さんが適切な行動を獲得し、保護者がポジティブな気持ちで子育てに向かうことを目標とした家族支援です。
- vii 「対応の体制の整備」は、保護者が事業所に対して、相談や「こうしてほしい」というお願いをする際に、誰に、どこにお話をすれば良いか、が決まっていて、それを保護者に知らされていることも含まれています。また、対応とは、相談やお問い合わせに対して、迅速かつ適切な対応をすることだけでなく、対応の必要がないことや対応できない事情について保護者が理解できる説明を行うことも含まれます。

事業所における自己評価結果（公表）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・使用する保育室が人数によって均一ではないが廊下等を使いながら安全に配慮しています。 ・整理整頓。曜日によって使用するクラスを分ける工夫をしています。 ・利用者によってはパーソナルスペースが広く必要な方もいるのでコーナーを区切るなど皆が快適に過ごせるようにしています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが通園する人数に合わせて日々調整を行っています。 ・安全に運動課題に取り組めるように人数を分けてグループごとに課題を行う等の工夫をしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ視覚支援や環境設定を行っています。 ・施設の老朽化により、保育室や園庭の玩具、廊下等、破損している所がありますが、職員で修繕しております。 ・お子さんの特性に合わせたスケジュール表を取り入れています。 ・部屋や遊戯室等に名称を付け子どもにも理解しやすいようにしています ・冬場は床暖房やエアコンを使用。加湿器、空気洗浄器も使用しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・場所が限られているため、必要に応じて仕切りを使う等、工夫しています。 ・掃除箇所を当番でまわす、個々でチェックする⇒改善するようにしています。 ・子どもたちが落ち着いて過ごせるように整理整頓された空間を作っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の部屋はないが、衝立等を利用して個別のスペースを確保しています。 ・空いている部屋があれば利用可能です。 ・衝立等を使用して適宜子どもに合った環境づくりを心がけています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談をしやすい（普段からの）チームワークを大切にしています。 ・目標設定を保護者にも確認し実施しています。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年間反省や行事のたびにアンケートを取り、保護者の意見や希望を把握し、次の行事の企画の参考にしています。 ・保護者の意向を聞く機会があり職員一人一人に周知できるようにしています。 ・保護者からの意見については、職員間で共有し改善に努めています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・園長面談が年2回あります。 ・相談、共有を心掛け、前向きに改善に努めようとしています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、第三者評価の機会がありました。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修を受ける機会があり、知識を深めています。(2か月に1回程度) ・職員全体での必須研修に加え他園で行っている研修にも参加しています。
適切な支援の提供	11	適切に年間カリキュラムが作成、公表されているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムの作成を行っています。必要に応じて開示しています。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントについても確認し支援方針会議の中で保護者のニーズや個々の発達に合っているか話し合い検討しています。 ・職員間でも綿密に相談、共有しあって作成しています。
	13	児童発達支援計画を作成する際は、児童発達管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・業務が重なる日や勤務時間の違い等から十分に時間を取ることができず、事後報告になることが課題ですが、全員が共通理解できていると思います。子どもの最善となるよう特に努めて取り組んでいます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別記録にファイリングし、常に見直すようにしています。 ・保育補助に入る職員にも共有されるように検討していきたいと思っています。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・確認を行ったうえでアセスメントを行っています。 ・法人内で統一した書式を用いています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を個人個人に合わせて、ねらい・支援内容を立てています。保護者にも伝わりやすい文章なども考えて作成しています。 ・家族支援では、定期的な情報発信、ペアレントトレーニングの実施、家族交流会等を実施しています。 ・移行支援については、地域の幼稚園や保育所と交流したり、施設の近くの公園で遊ぶ機会を設定しています。また、就園先や就学先の園や学校との連絡会を実施し、支援の方法等を引き継いでいます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・業務が重なる日や勤務時間の違い等から十分に時間を取ることができず、事後報告になることもありますが、担任間で話し合い決定するようにしています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達、興味あるものなどを考え工夫しています。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容によって子ども一人ひとりの発達や特性に合わせた教材を準備し、場面や必要に応じて、集団と個別で対応しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗り等で不在であったり、職員の年休時等は、臨時職員が入ることがありますが、その都度職員の動きを確認しています。 ・主に朝の準備の際に情報共有を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・バス添乗が多い為、なかなか時間が取れないことが課題ですが、記録を取る際に状況の共有と合わせて話をする機会を設けています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日個別記録の記入を細かい点も記載するよう努めています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に会った際は、支援計画に基づいた様子(よかったこと)を伝えていきます。 ・計画的に日程を設定してモニタリングを実施しています。

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○		・必要に応じて担任や児童発達支援管理責任者が参加しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っているか	○		・福岡市の地域生活支援協議会こども部会に相談支援専門員が参加しています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）東部の間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・併行通園している児が増えています（肢体不自由児）。保護者を通して併行通園の様子を聞き取り、必要に応じて連携を取っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・保幼小連絡会へ参加しています。
	28	（28～30は、センターのみ回答）	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて他事業所からの職員の体験実習を受け入れています。 ・他の事業所と同じ研修に参加しディスカッションする場があります。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修で興味があるものに参加しています。 ・全員が参加は難しい為、参加した職員は報告会を実施し、内容を共有するようにしています。
	30	（自立支援）協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		・相談支援専門員を中心に参加しています。
	31	（31は、事業所のみ回答）	○		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のないこどもと活動する機会があるか	○		・クラス単位で年に1回程度交流する機会を設定しているが、感染症等の流行で中止になったり、相手園の行事もあり日程調整が課題です。もう少し頻度が増えると相互理解も深まると感じています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング等個別面談日を設定し共通理解を図るようにしています。 ・日々の様子をおたより帳のでやり取りし、共有しています。 ・親子通園のクラスはほぼ保護者が側にいて保育をするので、どんなに小さなことでも変化を見逃さず伝えるようにしています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		・Pステップぶち、Pステップ、ペアレントメンター情報交換会等の研修会を実施しています。また、肢体不自由児部門については、茶話会や交流会を実施しています。	

保護者への説明責任等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に運営規定や利用者負担等については説明を行っています。 ・支援プログラムについてはホームページにて公表してる事を契約時等に伝えています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画書は、ガイドラインに示されたねらいや内容を踏まえたものを保護者と確認しながら作成しています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面談の機会を設け、説明し同意を得ています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・コドモンや電話を通じて寄り添った支援を心掛けています。 ・定期の面談以外に、必要に応じて面談を実施したり、個別保育参観やその中で振り返り面談を行うことで1対1で話す機会を設けています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2歳児通園では保護者会はありませんが、保護者の昼食時間（分離時間）を情報交換や交流の時間として利用いただいています。 ・3, 4, 5歳児は、毎月保護者会を実施しています。 ・きょうだい児は、夏休み期間を利用して同伴通園、きょうだい児保育、交流会等を各パートで実施しています。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の不安にすぐに解決できるように対応している。急ぎの場合は電話相談を実施しています。相談内容によっては、児童発達支援管理責任者や管理監督者を交えて対応を協議し組織的に、かつ速やかに対応するようにしています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月クラス便り（保育計画）を発行しています。園便りや献立表等はHPやコドモンで発信しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルチェックの徹底を行っています。 ・個人情報の研修を定期的実施しています。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて視覚支援を行っています。 ・外国籍の方には配布プリント等英語に翻訳したものを配布するなどしています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行事に地域住民が参加することは子どもの安全上やいつもと違う不安感の増加があるため難しいが、来賓として参加を案内しています。施設が催すイベント（フレンドフェア）は地域住民に案内をしています。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に重要事項説明書を用いて説明を実施しています。 ・職員については、安全衛生委員会を毎月実施し、確認に委員を通して各パートで周知を徹底しています。 	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	・火災、地震、ミサイル、不審者侵入等の避難訓練を月に1回実施し、避難経路の確認を行っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○	・入園前にカンファレンスを実施し、全職員で情報を共有しています。変更があった場合は、必要に応じてカンファレンスを実施したり、朝礼等で確認をしています。 ・対応をまとめた個別のファイルを作成し、緊急時に直ぐに取り出し、対応できるようにしています。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	・医師の指示書に基づいて給食を提供しています。 ・1対1対応、個別スペース等安全に食事を提供できるようにしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○	・安全計画、安全マニュアルを作成し、年度当初に研修を実施しています。また1週間に1回遊具等の安全点検を実施しています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	○	・安全衛生委員会を実施し、職員間で共有すると共に、保護者に説明し避難経路を説明しています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか	○	・ヒヤリハットと思われる事項は、報告書の作成、回覧、朝礼で事例報告と改善、今後の方針を共有しています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	・虐待防止委員会を実施しています。また障害特性や支援の方法等の研修を実施し、適切な支援の方法を徹底しています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	・本児や他児等子どもに危害が生じる場合を除き身体拘束をしないことし、保護者には契約時に重要事項説明書を用いて説明しています。 ・活動をする際には、無理強いをせず、子ども自身の気持ちがあくように働きかけるように心掛けています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡市立西部療育センター		
○保護者評価実施期間	令和7年12月 1日		～ 令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	110名	(回答者数) 72名
○従業者評価実施期間	令和7年12月 1日		～ 令和7年12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 36名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・増加している発達障がい児に対する療育支援の充実	・研修会や事例検討会を実施し、個々の特性を理解し、環境設定を行う等、安心な療育の提供に向け取り組んでいる。 ・保護者支援として、段階的なペアレントトレーニングの講座を実施している。	・計画的な職員研修の実施。職員間のOJTを通して、職員一人ひとりの専門性を高める。
2	・幼稚園・保育所との交流	・発達が気になるこどもの受け入れを積極的に行っている幼稚園・保育所との交流保育を3～5歳児の知的障がい児・肢体不自由児を対象に実施。 ・幼稚園・保育所での活動を通して遊びの幅を広げ、コミュニケーション手段の獲得等の支援の充実を図る。 ・職員交流を企画し、当センター職員の定型発達や保育の理解を深める。	・幼稚園・保育所交流の時期や回数等の検討。
3	・子どもの特性に応じた専門性のある支援	・こども一人ひとりの発達段階と特性に応じて作成した個別支援計画に沿って主体的な活動が促されるように支援をしている。 ・視覚的な支援や個別の準備ボックスの活用など、生活の見通しを持ちやすくする工夫等を取り入れ、自立的な生活につながる支援を実践している。	・1と同様。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・お子さんの活動スペースの十分な確保	・子どもの受け入れ人数に対してスペースが狭く、クールダウンの場所を設けたいが物理的に難しい。 ・活動スペースの確保が難しく、プライバシーへの配慮が難しい(排泄や着替え等)	・限られたスペースでの環境調整。 ・プライバシー保護に関するマニュアルの整備と周知徹底。
2			
3			